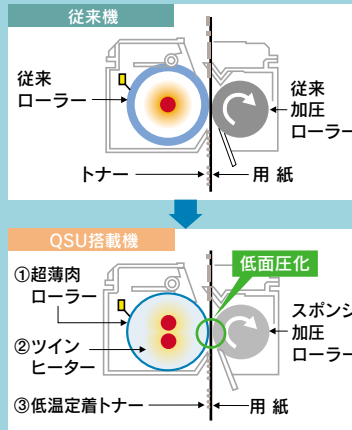
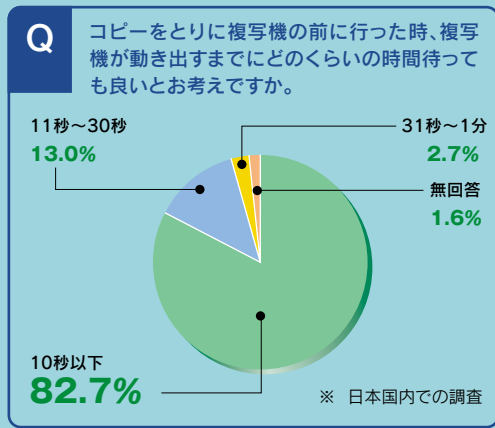


スピーディな復帰で待機時に省エネ リコーの省エネ技術「QSU」

リコーが実施した市場調査によると、ほとんどのお客様が待ち時間の少ない複写機を望んでいることがわかります(円グラフ)。また、省エネモードからの復帰時間が長い製品を使用中のお客様は、省エネモードを利用していない割合が多く、QSU技術を搭載した製品を使用中のお客様では、省エネモードを利用している割合が多いことも確認できました。省エネモードからの復帰に時間がかか

ると、使いたい時にすぐにコピーがとれず、お客様に省エネモードを使用していただけられないのです。つまり復帰時間の長い複写機は待機時に余分な電力を消費していることになります。「QSU」技術搭載製品をお使いのお客様は、ストレスを感じることなく、無意識に省エネを実践できていると言えます。



● imagio Neoシリーズに搭載のQSU技術

- ①超薄肉定着ローラー
待機状態から速やかに立ち上げるために、定着ローラーの肉厚を可能な限り薄くし、昇温時間の短縮化を図りました。
- ②ツインヒーター
薄くなった分、冷めやすくなったローラーを、独立制御の2本のヒーターを使い、きめ細かく効率的に温度制御します。
- ③低温定着トナー
より低温で定着しながら、従来と同等以上の定着性を確保したトナー。スタートアップの速さと、使用時の省エネに貢献しています。

世界初の10秒復帰を実現した高速デジタル複合機

imagio Neo 752ec/602ec

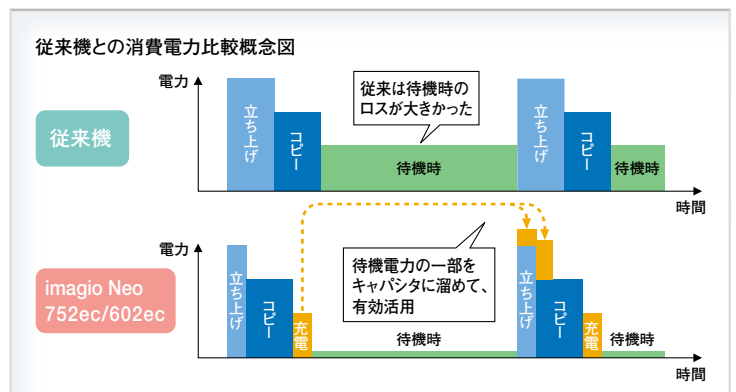
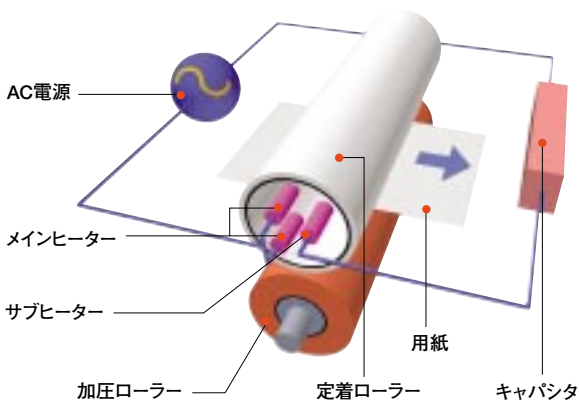
2003年度、リコーは高速デジタル複合機 imagio Neo 752シリーズに、QSUとキャパシタ(蓄電デバイス)を組み合わせた「HYBRID QSU」を搭載し、省エネモードからの30秒復帰を実現しました。さらに2004年度は、「HYBRID QSU」をさらに進化させ、省エネモードから使用可能にな

るまでの復帰時間10秒を実現した imagio Neo 752ec/602ec を発売しました。キャパシタの特徴は、急速に充電・放電ができる点にあります。従来は、定着ローラーの昇温補助用に、キャパシタを搭載していました。「QSU」技術の1つである薄肉定着ローラーは、昇温時間が短くてすむ一方、75枚/分の高速で印刷を行うと定着ローラーの熱が紙に奪われ易くなり、コピー品質と処理速度を維持することができなくなる

ためです。今回は、印刷時だけでなく立ち上げそのものの補助にも、キャパシタを利用しています。これにより生産性を落とすことなく、省エネモードからの復帰時間10秒(従来機*の1/30)を達成しました。高速デジタル複写機分野で、10秒復帰は世界初です。

* imagio Neo 750 モデル75との比較。

※ キャパシタ搭載機は、100V電源を使用する日本国内発売製品のみ。



お客様の紙の使用量を削減するソリューション

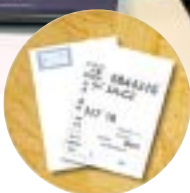
リコーはお客様の業務形態に合わせた理想的なプリンティング環境を提供する「プリンティングソリューション」や、紙文書を簡単にスキャン・電子化し、ネットワーク上のパソコンで確認・共有化できる「ドキュメントソリューション」を通じて、お客様の紙の使用量を削減に貢献しています。

ICタグの情報を書き換え表示できる RECO-View[®] ICタグシリーズ

リアルタイムの在庫数や生産能力を記録・書き換えできるICタグは、現在、生産・物流などさまざまな情報管理に活用されています。しかし、ICタグには「記録されたデータが人の目に見えない」という限界がありました。リコーは、ポイントカードなどで利用されているサーマルライタブル技術を使って、ICタグに記録されている情報を表示・書き換えできる「RECO-View[®] ICタグシリーズ」を開発しました。ICタグの情報を書き換えると同時に、シートやタグのプリント内容を書き換えることができるため、紙の使用量を削減につながります。リコー沼津事業所の自社生産ラインで実証を行い、2003年12月からメディアを発売しています。現在ではRECO-View[®] ICタグシリーズに対応したプリンター/リーダー/ライターも各社から市場に投入されており、製造業を中心に30社以上で運用されています。



ICタグシート用プリンター



RECO-View[®] ICタグシート

INTERVIEW ⇒ お客様

統合プリント管理システム

「Ridoc IO Gate」&プリンター導入事例 — 慶応義塾大学 様

統合プリント管理システムの導入により、 用紙使用量も約50%削減。



重要な課題だった 印刷環境の改善

慶応義塾大学様では、大学内の情報化が進む中で印刷環境の改善が重要な課題のひとつになっていました。三田や日吉のキャンパスでは、約2台のパソコンごとに1台のプリンターをローカル接続していたため、設置台数が膨大になり、メンテナンスの手間やコストもかさ



りしていました。オンデマンド印刷システム。プリンター横の端末で、自分の印刷ジョブを選択し印刷を行う。

学生向けサービスの向上と コスト・環境負荷削減を 同時に実現

三田、日吉、矢上、信濃町の4つのキャンパスでリコーのシステムをほぼ同時に導入。合計57台のオンデマンド・課金印刷システムが稼働しています。ネットワーク接続したことにより、メンテナンスの手間やコストを削減できたほか、プリント需要の多い場所・時間帯も把握できるため、最適なシステム配置が可能となり、塾生へのサービス向上にもつながっています。また、統合プリント管理システムによりモノクロ1枚5円/カラー1枚30円の課金を行うことで、塾生のコスト意識が高まり、印刷枚数が前年度比約1/2に低減したキャンパスもあります。